上田市における取組み概要

長野県　上田市概要（令和6年時点）

面積：552㎢　　**人口**：15.7万人

事業概要

虐待防止

子育てを孤育てさせない

夫婦は子育ての仲間の最小単位

共に支えあい育ちあう仲間づくりを応援

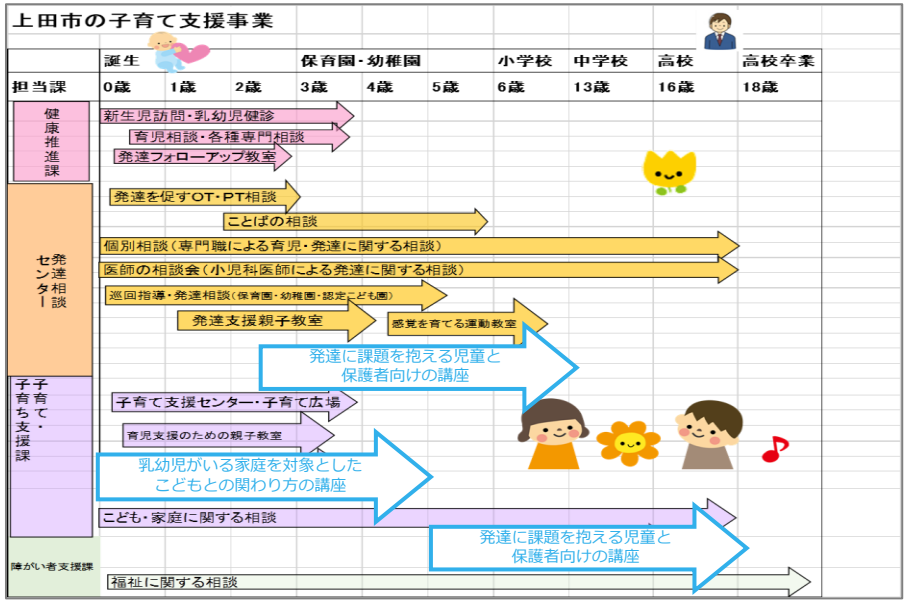
家庭の課題に応じた講座を複数運営

A.発達に課題を抱える児童との関わり方の講座

- 児童が保育～小学校卒業までの家庭
- 児童が中高生の家庭

B.乳幼児がいる家庭を対象としたこどもとの関わり方の講座

- 一般の母親
- 35歳以上で第一子を出産した母親（1コース）
- 一般の父親（1コース）



こどもまんなか
こども家庭庁

A.発達に課題を抱える児童との関わり方の講座

令和６年度の実績

●目的

・より良い親子関係の構築

こどものとの肯定的なコミュニケーションを増やす

・より望ましいこどもの行動を増やす。

親がほめ方や指示の仕方など具体的スキルを学ぶ

●実施方法

平日　隔週　10時から12時　全7回　／　年2コース実施

・全体で5回以上、概ね隔週、1回90～120分

・毎回参加、ホームワークを必ず行う

・各回の流れ

①ふりかえり（前回の内容、ホームワーク）

↓

②講義（今回の内容）

↓

③演習／ロールプレイ

↓

④ホームワークの提示

●対象

・こどもの行動に困っていて、子育てに不安を感じている保護者

・保護者：グループでの話し合いが可能な方

・第1コース：年少から年長まで　／第2コース：小学生

第1コースには8家族11人が参加

内、両親での参加は3組

【父が参加したきっかけ】

・母から誘われた

・母が出産を控えていた

・母のみの参加では不安

●募集方法

・広報、市のHPで案内。　子育て支援アプリで配信

・個別相談（発達相談センター、育児相談　等）での紹介

希望者は発達相談センターに電話で申し込み→参加案内を送付

こどもまんなか
こども家庭庁

B.乳幼児がいる家庭を対象としたこどもとの関わり方の講座

令和６年度の実績

●目的

親同士がワークショップを通じて知識、自信、
スキルを身につけることで親としての成長を育む

●実施方法

・参加者が話し合いたいテーマを決め、ファシリテーターと
全6回のプログラムを組み立て、グループワークを行う
・託児あり
・ティータイム

●対象

・一般の母親（2コース）
・35歳以上で第一子を出産した母親（1コース）

・一般の父親（1コース）

令和５年度において1コース　最大10人
（平均７～８人）が参加

父親向け講座

●実施背景

子育てや家族の悩みや対応について話す機会がほしい
他のお父さんと話したい

父親にもっと育児参加をしてほしい
父親向けにも講座をしてほしい

●プログラム内容（R5実績※参加者によってテーマは変わります）

「発達」「寝かしつけ」「安全」「あそび」
「保育園（将来）」「妻との関係」「家事分担」
「相談先」

●開催後の変化

・こどもの年齢が近い参加者同士が家族ぐるみで
出掛けるなど繋がりが続く

・家庭の不安が強い参加者と
地区担当保健師の面談を設定できた

こどもまんなか
こども家庭庁

令和６年９月20日　実施

オンライン自治体説明会で寄せられた質問

Q

虐待件数が減ったなど、統計的に結果が出ていますか。
年１回全体交流会が行われるとのことですが、ペアトレで実施したことを継続している人はどれくらいいますか。

A

虐待件数に影響したかの統計は取っていないため、相関は確認できません。
全体交流会に参加している方の3割程度の方は、部分的にペアトレの実践を続けて下さっていますが、年数がたつほど、その数は少なくなります。ペアトレの実践は続きづらいですが、ペアトレを通じてできた保護者同士の交流は続いていることが多いです。

Q

一般の応募者と、要支援児童及び要保護児童が居る世帯の参加者をどのように組み合わせていますか。
（配慮が必要な人をどのように溶け込ませているかという観点）

A

参加者はコースごとに公募によるため、要支援児童及び要保護児童が居る世帯であっても…他の参加者と同様に参加していただいています。
乳幼児向けのプログラムでは、支援者から事前情報を収集し、場合によっては取り上げないほうがよい話題について配慮しながらファシリテートしています。ペアトレでは、理解面やコミュニケーション面で配慮が必要な参加者に対して、隣に必ずスタッフが座るようにしたり、雑談の際にはスタッフが間に入り、他の参加者と話す機会をつくったりしています。

令和６年９月20日　実施

オンライン自治体説明会で寄せられた質問

Q 父親支援の実践、利用者の方々の声大変参考になりました。複数のプログラムを実施することのメリットを教えていただきたいです。

A 子育て支援の中で、父親支援の必要性が重要視されており、実際に子育てに携わる父親からも「相談できる場がない」「育児について話せる、仲間がいない」との訴えに対し、当市では父親講座や夫婦参加可能な講座の開催に踏み切りました。
対象者が違うため、より広い範囲でニーズを抱えた保護者を支援できることがメリットです。
どちらも仲間づくりを行い、子育ての孤立感を軽減することを狙いとしています。

Q 1講義で職員さん（ファシリテーター、託児所保育士込み）は何人ぐらい参加されていますでしょうか。

A 実施に必要なスタッフ数は、乳幼児向けのプログラム7名（ファシリテーター2名、託児5名）、ペアトレ2名（リーダー、副リーダー）です。当市のペアトレは託児を行っていません。